



SAS® OFFICE ANALYTICS

さらなるデータ分析パワー、ビジュアライゼーション、
ハイパフォーマンス機能を使い慣れた Microsoft Office 環境から
容易に活用

主な機能

SAS Office Analytics は、あらゆる規模の企業に適しており、使い慣れた Windows OS 向けソフトウェアを用いて SAS の強力な分析機能とハイパフォーマンス・ツールにアクセスできます。アナリストは分析結果や情報を迅速かつシームレスに共有でき、経営幹部は各自のメール・クライアントや SharePoint ポータルから業績や業務パフォーマンスを追跡できるようになります。ユーザーは資格権限にもとづき、分析結果を Excel スプレッドシート、Word 文書、PowerPoint プレゼンテーションに直接埋め込んで共有し、受け取ったファイル内のチャートやビューを Office アプリケーションから直接更新できます。

ビジネスメリット

あらゆるビジネスユーザーが SAS の強力なビジネス・インテリジェンス機能を利用でき、IT 部門によるサポートは最小限で済みます。誰もが事実にもとづく正確な情報を容易に利用／共有できるため、コラボレーションが促進され、情報にもとづく意思決定を強化することができます。

対象ユーザー

SAS Office Analytics は、セルフサービス方式で分析を実行するビジネスアナリスト、データアナリスト、統計専門家、プログラマーのほか、他の人が SAS で作成／出力した分析結果にアクセスする必要があるユーザーを対象として設計されています。



THE
POWER
TO KNOW®

概要

ビジネスの世界では、驚異的なスピードで膨大な量のデータが蓄積されています。しかし、あらゆるデータを収集して貴重な情報に変える取り組みは簡単ではありません。

業務部門の観点からすると、必要なデータへのアクセスを確保することは必要条件の一部にすぎません。たとえ情報が揃っていたとしても複数のデータソースやデータベースに散在しているケースが多く、その場合はレポートにエラーが入り込む可能性が高まります。そして IT 部門の多くは、予算の縮小とリソースの制約に直面しながら、日々の管理業務に追われているのが実情です。

企業が今必要としているのは、有益な情報を有意義な形で利用できる環境です。例えば顧客情報ひとつ取っても、2次元の単純なスプレッドシートではなく、ビジュアルな多次元分析が求められるようになっています。また、全社的な情報共有を実現することで、誰もが共通の目標に向かって連携し、意思決定者がどこにいても確信をもって迅速に行動できるように支援することも重要です。

今では、組織全体で信頼性の高い情報にタイムリーにアクセスし、分析／共有することのできる機能が手軽に利用できるようになっています。

SAS Office Analytics を導入すると、ビジネスユーザーは使い慣れた Microsoft Office 製品の環境を通じて SAS Analytics のパワーを活用できるようになります。ポイント・アンド・クリック方式の対話型インターフェイスから分かりやすいメタデータ機能まで、習得を容易にする機能が充実しているため、データ分析の専門知識を持たないビジネスユーザーでも貴重な知見・洞察を素早く導き出すことができます。

主な利点

- 強力な SAS Analytics に Microsoft Office アプリケーションでアクセス**
 ポイント・アンド・クリック方式の対話型インターフェイスにより、Word、Excel、PowerPoint、SharePoint など Microsoft Office の使い慣れたアプリケーションで直接、大量のデータにアクセスして分析し、結果を表示することができます。標準搭載のタスクとビジュアルなプロセスフローを用いてガイド付きの分析機能を利用できるため、SAS の初心者でも高度な分析の迅速な実行、プロジェクトのスケジューリング、結果の共有、出力の埋め込み、分析の反復利用が行えます。
- レポートを作成して対象者や場所を問わずに共有**
 必要に応じてカスタム・ウィザードを作成／配布し、パブリッシュ機能を通じて情報を配信できます。SAS Visual Analytics で作成したデータ・ビジュアライゼーションをはじめとする動的な対話型コンテンツを Microsoft Office や Web のユーザー向けに発行することも可能です。
- データのアクセスと制御の一元管理により、IT 部門を解放**
 企業データへのアクセスを一元管理する機能により、IT 部門はユーザーに適切なアクセス権限を付与し、それぞれが自律的にビジネスの変化に素早く対応できる環境を提供できます。パフォーマンス／監査レポートは、データガバナンス・ルールのコンプライアンスに能動的に取り組むために役立ちます。また、ユーザーが自力で問題を解決できるケースが増えるため、IT 部門はより戦略的な取り組みに集中できるようになります。
- ハイパフォーマンス・コンピューティングにより、生産性が大幅に向上**
 SAS のハイパフォーマンス・ツールとの統合により、データ分析／情報活用の生産性が大幅に向上します。お客様の

環境に合わせてジョブを最適化できるほか、より短時間で結果を得ることを可能にするグリッド環境の自動検出機能も備えています。

ソリューション概要

SAS Office Analytics は、使い慣れた Windows 環境で SAS の分析機能を活用するための使いやすいプロジェクト指向のソリューションです。ビジネスアナリスト、統計専門家、SAS プログラマーは、Microsoft Office アプリケーション、Outlook クライアント、SharePoint ポータルなどのアプリケーションを使ってデータを収集/管理し、有意義な分析を迅速に実行し、結果を簡単かつ快適に共有することができます。

サーバー規模別のライセンスモデルを採用しているため、あらゆる規模の企業で無理なくご利用いただけます。最初に必要な規模で導入し、ビジネスの成長に応じて拡張していくことも可能です。

データのアクセスと管理

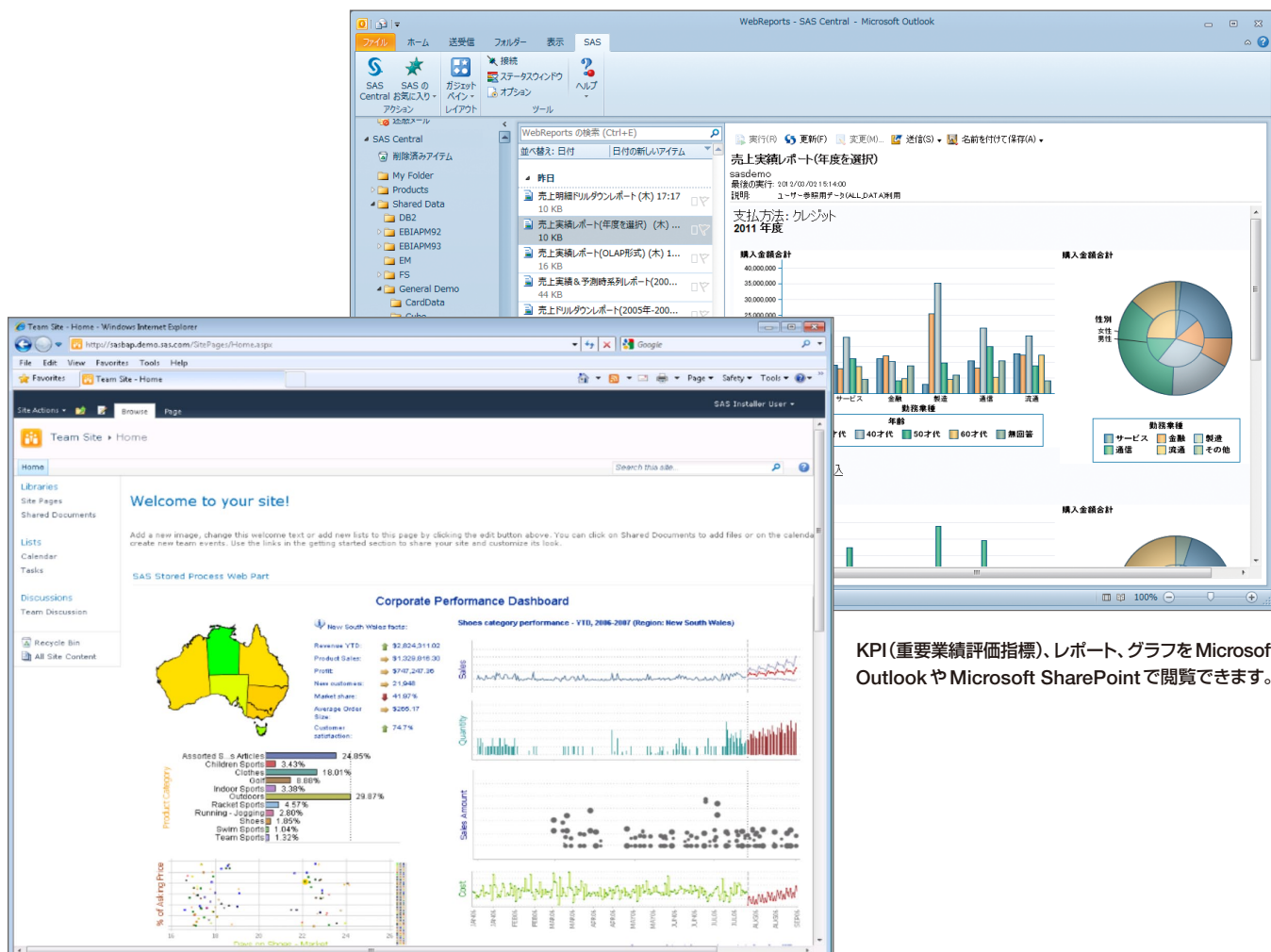
Microsoft Excel のユーザーは、さまざまなソースにアクセスしてデータを表示し、SAS Analytics の機能でデータ分析を実行できます。対話型のクエリ・インターフェイスを通じて結果が直接 Excel のスプレッドシートに返されるため、Microsoft Excel の許容範囲を越えた大規模なデータソースを対象にしたプレビューやクエリも可能です。数千行に及ぶデータでも一度に閲覧することができます。これにより、すべてのレコードにもとづいて精度の高い分析を実行できるため、サンプリングした一部のデータや詳細データを集計した要約データを使って分析を行う場合に生じる諸問題から解放されます。さらに、SAS サーバー上でデータ処理が実行されるため、データに関する Microsoft Office の制約も回避できます。

フィルターやソートのダイアログ・ボックスが使えるため、分析結果を絞り込んで扱いやすいサイズにしたり、Microsoft Excel に挿入するデータを特定したりす

るのも簡単です。また、さまざまなデータソースからの結果を生データとして Excel に取り込み、Excel のネイティブ機能ですらに操作することも可能です。

SAS Office Analytics では、データの自動更新はもちろん、クエリの再実行や関連フィルターの適用を行う機能により、利用できる情報を常に最新の状態に保つことができます。複数のデータソースを動的に切り替えられるため、1つのワークシートや文書の中で、異なるデータソースを対象として複数のタスクを実行することも可能です。結果セットが事前に設定したサイズを超える場合は警告が表示されます。

セキュリティ面も効率よく一元管理されるため、意思決定者は IT 部門に負担をかけることなく、必要なデータにアクセスできます。その結果、IT 部門に溜まる未処理の情報依頼の削減、全社規模での正確な情報へのアクセス、よりの確な情報にもとづくより迅速な意思決定が実現します。



KPI(重要業績評価指標)、レポート、グラフを Microsoft Outlook や Microsoft SharePoint で閲覧できます。

強力な SAS® Analytics

SASは業界で最も包括的な予測分析機能のセットを提供しています。SAS Office Analyticsは、従来の分散分析から、厳密法や動的な視覚化技術にいたるまで、幅広い統計手法を完備しています。ビジネス向けに最適化された統計ソフトウェアを活用すれば、プロセス改善、開発促進、収益拡大、優良顧客の維持と満足度向上に役立つ新たな情報を効率よく発掘できます。

グラフとレポートの作成機能

企業では、ほとんど誰もがMicrosoft Officeを日常業務に使用しており、経営管理レポートの標準となっているケースも少なくありません。SAS Office Analyticsを導入すると、そうした環境におけるレポートの作成や知見の共有が容易になります。SAS Analyticsによる分析結果をMicrosoft Office文書に埋め込み、Microsoftのネイティブ機能を使って意思決定者に発行／配信することができます。受信者は必要に応じていつでも、埋め込まれた分析結果をMicrosoft Office文書の閲覧中にその場で更新できます。

ガイド付きの分析と

ハイパフォーマンス・ツール

このソリューションにはSAS® Enterprise Guide®が含まれており、上級ユーザーはより高度な機能(分析、データ操作、視覚化)を利用できます。そして、これらの機能を用いたカスタム分析とその結果も、WebベースのレポートやMicrosoft Office文書に簡単に組み込むことができます。

ハイパフォーマンス・ツールとの統合に加えて、管理性と生産性に関する機能が強化されることで、より高速に効率よく結果を入手できるようになり、エラーが発生する可能性も低減します。

主な機能

データのアクセスと管理

- 使いやすいインターフェイスで物理データ構造をビジネス用語にマッピングできる
- ほぼすべてのソースデータにアクセス可能で、複数ソースへの同時アクセスもできる
- リレーショナル・テーブルやOLAPキューブのデータについて、一貫したビジネスビューを定義できる
- クエリ属性のセットを組み合わせて、異なるデータベース管理システムにまたがって単一のビジネスビューを作成できる
- 複数ソースのデータを組み合わせることができる
- 結果セットのサイズを制御して、エラーの発生や長時間のクエリ実行を回避することができる
- 一貫したビジネスルールを取り込み、許容されるオプションを特定してユーザーに通知できる
- メタデータを一元管理できる
- レポジトリとプロンプトの作成／管理(動的に生成される値リストを用いた階層型のプロンプトを含む)、SAS Metadata Serverの制御、アクセス制御の定義、ユーザーとグループの登録／管理などを、単一のインターフェイスで実行できる

ガイド付きの分析とハイパフォーマンス・ツール

- パワーユーザー、プログラマー、アナリストが.NETベースのネイティブWindowsアプリケーションを用いて高度な分析を実行できるように支援できる
- 強化されたユーザー・インターフェイス(状況に応じたメニュー、ツールバー、ロールベースのユーザー定義など)が利用できる
- 幅広いトピックを網羅した定義済みのタスクとタスク・テンプレートが豊富に収録されている
- ウィザード方式の条件付き処理機能により、複雑な条件処理を容易に作成できる
- オートコンプリート機能や構文チェック機能を備えたプログラム・エディタにより、プログラマーの生産性を強化できる
- 計算列の作成、各種フィルタリング・オプション、結果プレビュー機能により、クエリ構築プロセスの効率を改善できる
- SASや、OLE DB for OLAPおよびMDX標準をサポートする他のベンダーのデータソースからOLAPキューブを表示できる
- OLAPキューブのスライスを詳細分析に利用できる
- 地理空間データを簡単に分析に取り込むことができる
- アクセス可能な任意のデータソースを対象としたクエリや抽出、あるいはSQL/MDXの記述をGUI操作で実行できる
- 分析結果をSASストアプロセスにパッケージ化することが可能。すべてのSAS Business IntelligenceインターフェイスおよびMicrosoft Officeでパッケージを再利用し、SASの全機能にアクセスできる。これにより、IT部門が関与しなくてもセキュリティを維持しながら作業を分担できる
- SASのハイパフォーマンス・ツールと統合できる(ハイパフォーマンス・ロジスティック回帰とハイパフォーマンス線形回帰のタスクも追加で利用できる)
- 生成されたエラー、警告、ノート、さらには関連する行番号と影響を受けるコードのサンプルをログサマリー・ウィンドウで確認できる
- SASプログラムを国際化する際に生じる可能性がある問題を洗い出し、修正のアドバイスを取得できる
- プロセスフローやプロセスフロー内の特定オブジェクトにノートを追加できる
- 新しい.msiインストーラーとアプリケーション・ストリーミング機能をサポート

Microsoft Office との統合

- SASのデータアクセス／レポート／分析機能に、Word、Excel、PowerPoint、OutlookなどのMicrosoft Officeツールから直接アクセスできる
- Microsoft Officeツール内でウィザード方式のレポートを作成できる
- 以前に作成した結果をオフラインで表示できる
- Microsoft Excelを一時的なデータストアではなく、データ分析アプリケーション(のフロントエンド)として活用できる
- IT部門が一元的に定義した企業データソースのデータにMicrosoft Excelを用いてアクセスし、ソースデータへの「書き戻し」を実行できる
- ボタンをクリックするだけで、IT部門が一元的に定義した企業データソースから最新データを取得し、結果を更新できる
- Microsoft Excelの行数の制約を超えるデータも循環方式で使用できる。サーバー側の最適化機能により、大規模なデータソースが一度にクライアントへ転送される心配はなし

Microsoft SharePointとの統合

SAS ストアドプロセスの Web パーツを SharePoint サイトに追加することで、利用者がレポートを表示／更新したり、フィルターやパラメータをカスタムビューに適用したりできるようになります。また、ユーザー認証の維持や元になっている SAS 資産の再利用も可能です。

IT部門向けの

ビジネス・メタデータ管理機能

IT ユーザーやデータ・アーキテクトは、一貫したビジネスルールを定義したり、データ構造をビジネスユーザーが理解して活用できる用語に変換したりすることができます。こうしたデータ構造を適切に定義すれば、IT 部門は、ユーザーが利用できるデータの範囲やデータ量を制御することが可能です。つまり、IT 部門はユーザーの柔軟性や生産性を損なわずに、データのコントロールを維持できます。

主な機能(前ページより続く)

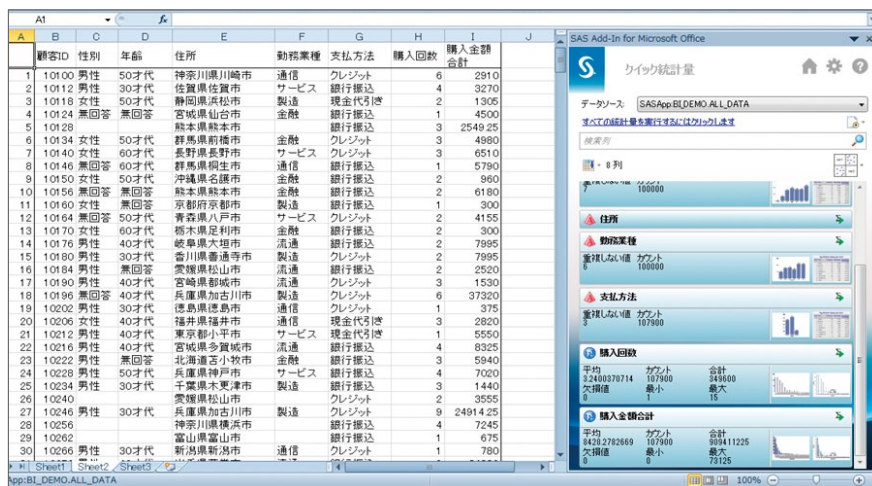
- 表示されたデータに対して Microsoft Excel の全機能を使用できる。また、常に最新情報にアクセスできる
- SAS から引き出したインテリジェンスと情報を Microsoft Word および Excel 文書に埋め込むことができる
- 分析結果を Microsoft Word で PDF、RTF、HTML として提供するか、生データ (CSV) または HTML を Excel に取り込み、Microsoft Office の機能でさらに操作できる
- ピボットテーブルを操作して、さまざまなソースからの多次元データを分かりやすく表示できる
- グラフィカルな結果を ActiveX、PDF、GIF、JPEG などの任意の形式に変換し、Microsoft Word、Excel、PowerPoint、Outlook に直接取り込むことができる
- 一元管理されているデータソースから最新データを取り込んでテーブルやチャートを自動的に更新し、常に最新情報を把握することができる
- Microsoft Office のネイティブ機能を使って、Office 文書に埋め込まれた結果をいつでも必要に応じてすぐに配信できる
- Microsoft Office の最新のリボンバー技術を活用して、類似した項目を論理的にグループ化できる
- SAS Visual Analytics で作成したデータ・ビジュアライゼーションや探索結果を Microsoft Word、Excel、PowerPoint で表示できる
- SAS Enterprise Guide で作成したレポートを Microsoft Office で実行・表示できる

Microsoft SharePointとの統合

- SAS ストアドプロセスが生成したレポートを SharePoint に追加することで、(権限に応じて)幅広いユーザーが組織のパフォーマンスを把握・追跡できる

SAS® Office Analytics システム要件

SAS Office Analytics の詳細なシステム要件、ホワイトペーパーのダウンロード、スクリーンショットの確認、関連資料の閲覧については、sas.com/jp/go/officeanalytics にアクセスしてください。



Microsoft Officeとのシームレスな統合により、SASのタスク、チャート、統計情報に簡単にアクセスできます。



THE POWER TO KNOW.

SAS Institute Japan株式会社 www.sas.com/jp

本社 〒106-6111 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 11F
大阪支店 〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-16 アクア堂島西館 12F

jpnsasinfo@sas.com

Tel: 03 6434 3000 Fax: 03 6434 3001
Tel: 06 6345 5700 Fax: 06 6345 5655